

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 23 年 7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょに、の基本理念を大切に、認知症になった一人の人間・人として関わり・支援をしたいと考えている。その人が生活して行く場として、不安のない生活が送れるよう支援している。スタッフだけでなく、ご家族、地域住民の方々の協力を頂きながら地域の中で生活ができるよう、心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニットの利用者の暮らしぶりや職員の業務に対する姿勢から、理念である「のんびり・たのしく・いっしょに」が浸透し実践されていることが感じられる。管理者と職員は地域住民の協力を得ながら、利用者が地域の一員として生活できるよう、取り組んでいる。利用者の重度化や終末期等に対する要望が家族から出される等、事業所に求められる機能が変化している中、今後の事業所の在り方や方向性を常に検討しながら、より良いケアが提供できるよう実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 1 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男・白石 宏美

評価完了日 平成23年 7月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 掲げた理念をホーム内に掲示。入居者さんのペースに合わせた関わりを心掛けている。	
			(外部評価) 「のんびり・たのしく・いっしょに」を基本理念とし、職員は各ユニットが一つの家庭と捉え、利用者一人ひとりのペースに合わせて一緒に生活を楽しむことを心掛けている。理念に沿った支援が行えるよう職員間で連携や協力を十分に行い支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所の散髪屋さんを利用、買い物もスーパーを利用し入居者さんも一緒に行ったりしている。地域の方とも顔馴染の関係が築けている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者が地域の一員として生活できるよう地域の方の協力を得ている。また、掃除当番等役割を担い、行事にも積極的に参加している。ボランティアを多数受け入れたり「むつみ新聞」を地域住民に届ける等、事業所の理解を得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に関催している運営推進会議で地域の方を含めた学習会を実施している。グループホームの理解、認知症の方の理解や支援方法について学んで頂いている。今年から地域の方の要望もあり、むつみ新聞において学習できるようコーナーも設けている。自治会の広報でもむつみの家に相談窓口がある事を告知して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、家族の方に参加して頂いている。むつみの家の活動状況、参加者からのご意見を頂いたり、避難訓練や敬老会などをいっしょに行っている。	
			(外部評価) 会議では事業所の状況や活動報告を行い、利用者や家族、自治会長、民生委員、行政の職員等からそれぞれの立場での提案や情報提供が行われている。また会議に合わせて避難訓練や勉強会、敬老会等も行い事業所の取り組みを知ってもらう機会となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者とはグループホームの待機者情報などの連絡を取り合い、情報の共有を図っている。運営推進会議においても日曜日開催にしているが毎回参加している。2ヶ月に1回の介護相談員の訪問もある。	
			(外部評価) 運営推進会議に毎回出席しており、情報提供や意見交換をしている。日頃から連絡を密に行い情報の共有に努めている。2か月毎に介護相談員の受け入れを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは身体拘束をしないことについては充分理解している。入居している人、一人一人の生活支援ができるよう心掛けている。入居者さんの症状の進行により外へ出て行かれる方が居られる。離棟の可能性のある方については、ご家族の了解を頂いて名札をつけたりしている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束をしないケアを理解している。帰宅願望の強い利用者の場合、行動を制限するのではなく一人ひとりの意向を汲み取り、居心地よく過ごしてもらえるような環境づくりをすることにより、落ち着いて生活してもらえるよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加したりしながら個々の職員が十分に注意している。身体的拘束は勿論、相手を傷つけるような言葉を発していないか、言葉かけには注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解が不十分であり、権利擁護に関する研修会に参加する機会を増やしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より入居時に契約に関する説明を行なっている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明しご家族の理解を得るとともに、不安の軽減に努めている。説明中にご家族の戸惑いがあるので説明の順番など書類の整理をするなどの工夫をしたい。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者、ご家族のご意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も定期的に訪問しており、ご意見を頂いている。運営推進会議、事業所行事、カンファレンスなど外部の方と接する機会をもち、意見交換できる機会を増やしている。  (外部評価) 家族には面会の時や電話で連絡や報告を密に行い、利用者の生活の様子や健康状態等を知らせており、職員と話しやすい関係が築けるよう取り組んでいる。介護相談員を受け入れ、運営推進会議には全家族に開催案内を送り自由に参加してもらい、参加者と意見交換ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 部署会、勉強会、個人面接など意見を述べる機会ももてるようになってきている。スタッフの意見が運営に反映されていない部分もある。	
			(外部評価) 管理者と職員は意見が言いやすい関係が築けている。各ユニットのリーダーが意見をまとめ定期的な会議で管理者と話し合い、さらに法人内の会議で話し合われ代表者にも届くようになってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 母体病院の事務長、看護部長が定期的に巡回して頂けるようになり、直接提言できるようになった。しかし、まだまだ不十分である。管理者はもっと業務の状況を把握して欲しい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体病院で定期的に研修を実施している。昨年度からは、担当看護師長が出向き、月1回の現任教育を行なっている。上部組織の開催する研修に対しても積極的に参加して頂き資質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 上部組織である地域密着型サービス協会の主催する研修会に積極的に参加し他施設のスタッフとのネットワークの拡大に努めたい。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の性格や入居前の生活環境を考慮しながら、日々のケアの中で傾聴、見守りをしながら、関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、フェイスシートなどに記入、聴き取りする中からご本人やご家族の不安や要望を理解するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族やご本人と話し合い、希望・情報を得ながら日常生活全般において支援ができるよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れる事のなく、馴れ合いにならない様に気をつけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡、報告を密にし、ご家族といっしょに、ご本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と相談しながらではあるが、特に面会制限もなく、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気であることができています。心地良く感じて頂ける様、心掛けています。	
			(外部評価) 職員は家族と日頃から連絡を密に行い、面会に訪れやすい雰囲気づくりを心がけている。馴染みの医療機関や墓参り等、利用者一人ひとりの生活習慣に合った外出の支援や関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の状態の違い、無関心な部分もあり、お互いが深く関わる事が少ない。スタッフが間に入りコミュニケーションが図れるよう心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談にのるなどの支援を行っている。 地域で出会った時などは挨拶を交わしたりしている。 他施設へ訪問したりし、その後の状況確認をしたり、相談を受けたりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、ご本人やご家族の意向を聴くようにしているが、意思表示のできない方はスタッフがその人の気持ちを汲み取れるように努めている。	
			(外部評価) 職員は「のんびり・たのしく・いっしょに」という理念を常に意識し、日々利用者に関わる中から思いや意向を把握できるよう努めている。会話や表情等、日々の様子を職員間で共有し利用者本位になるよう話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時フェイスシートを基に、お聴きし、情報を得るようにしている。充分でないところは日々の生活支援の中で把握するようにしている。また、ご家族が面会時に聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月、ミーティングを持つことにより、スタッフ全員が情報の共有ができるようになった。 毎日の申し送りにおいても話している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人から、希望を聴く事が難しい時がある。ケアプランの見直しの際に、ご家族の希望やご意見を聴き取り入れるようにしている。ご本人主体の介護・支援計画が作成できるように努めている。月に1回ケアプランの話し合いを持つようにしている。	
			(外部評価) 利用者の意向や要望は、日々の関わりの中で把握し担当者が主となって課題について職員間で話し合っている。必要に応じて医療機関等専門職と情報交換を行いながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録に記入。週間活動表にも具体的に記入し職員間の共有ができるようにしている。 その他、申し送りノートを利用し、細かい情報を伝え合うようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。 (できる限り本人の生活パターンに併せるよう努めている)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 周辺施設、自治会、ボランティアの方などの協力を頂きながら入居者の方が安心して生活ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。その 他にも個々のかかりつけ病院の受診を継続し身体観察 を行い必要に応じてご家族と相談対応を行なってい る。	
			(外部評価) 母体病院をかかりつけ医としている利用者が多いが、 以前からのかかりつけ医を受診している利用者もお り、希望する医療機関での受診を支援している。受診 は家族に対応してもらっているが、情報の共有を十分 に行い適切に受診ができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 事業所内の看護師と連携し、状況に応じ担当医と相 談、対応をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や担当医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう情報の提供を行い、情報の共有ができ るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 基本的にはターミナルケアは行っていないことを、 入居時に説明したうえで入居して頂いている。また 状態の変化に応じて、その都度、ご家族に対して事業 所としての考え方を説明している。ご家族にとっては 先々の不安が強く、今年度より特養等の施設申込みを 早め実施している。	
			(外部評価) 看取りは行わない方針を入居時に利用者や家族への説 明を行っている。利用者の身体状況等に応じて医療機 関や特別養護老人ホーム等の施設に適切に移行でき よう、利用者や家族と十分話し合いを行い、安心して 生活ができるよう支援している。	家族から重度化や終末期に向けた対応を事業所にして 欲しいという要望も出されており、方針も含め事業所 でできることを再度検討し、利用者が安定した生活が できるよう今後の取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 昨年度より、母体病院の看護師が毎月来棟し研修を行っている。外部研修に対しても積極的に参加して行きたい。実際の場面での経験不足なので不安である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。スプリンクラー、自動火災通報設備、自動火災報知設備については随時整備している。  (外部評価) 年2回避難訓練を実施し、合わせてAEDの使用方法や救急蘇生法等の学習を行っている。非常災害時の連絡網には地域住民の連絡先を入れており、協力体制もできている。また、事業所を避難場所として提供した事例もあり相互協力できる関係が構築されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者の人格の尊重、プライバシーの確保には十分に注意している。時に業務優先になってしまうことがあるので、スタッフ間で注意しあっている。  (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう対応をしている。一人ひとりの利用者に応じた声かけや支援方法を職員で検討し、日々実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援の、会話の中でご本人の気持ち、希望を聞き取れるように心掛けている。ご本人が選べる事のできる場面を作っている。自己決定のできない人は職員が、その思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースを大切に、無理強いしない支援を心掛けています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の好みに合わせて声掛けしている。散髪なども定期的に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、ユニットごとに献立を考え、買い物をいっしょに行ったり、食事の準備・片付けなど個々の状況を見ながら行っている。	
			(外部評価) 利用者の希望を十分取り入れながらユニット毎に献立が立てられている。食材は利用者と一緒に毎日買い物に出かけ購入している。食事中は会話を楽しみ和やかな時間となっている。外食や誕生日ケーキ、庭でウナギを焼く等趣向を凝らし楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養摂取、水分量の確保状況は個々によって違う。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養・水分補給ができるよう、こまめなチェックを行なっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援している。入居者の身体的疲労、負担の軽減も図れている。精神的な混乱を与えないよう無理強いしないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適時、トイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。排泄の自立している方もいる。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行いトイレで排泄ができるよう支援している。必要に応じて介護計画に盛り込み、目標達成に向け計画的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事作りを心掛けている。また、便通を良くするため乳製品を取り入れたりラジオ体操、散歩など軽い運動を行うなどして、自然排便を心掛けている。困難な方に対しては緩下剤を服用、調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴ができる状況にしている。一人一人の意向を大切にしている。入浴を嫌がる方に対しては声掛けを工夫し、入浴を楽しめるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の身体状況や要望等考慮し、回数や時間等臨機応変に対応している。仲の良い利用者同志と一緒に入浴したり、男性の入浴の日、女性の入浴の日を作る等、入浴が楽しみとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じた声掛けを行い、休息をとって頂いている。個々の自由な時間を大切に過ごしてもらっている。強制はしていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や量については全員が理解できるように確認表を作成している。その都度確認しながら取り組んでいる。服用時には職員同士が確認しながら誤薬することのないよう特に注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや家事手伝いなどを通して充実した生活ができるように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に対して支援できるようにし気分転換を図っている。地域行事等への参加、ユニット間の交流も積極的に行なっている。ご家族の協力も頂けるようにその都度お願いをしている。	
			(外部評価) 近所には散歩に適したコースがあり、その日の天候や利用者の希望で出かけている。毎日の食材の買い物に利用者と職員と一緒にスーパーに出かけ、食材選びをしている。地域行事に参加したり、近所の理美容店に行ったり外食やドライブ、家族との外出等日常的に出かける機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、お金の管理については事務所で行なっている。入居者の個別的買い物については必要に応じて、ご家族の了解を頂き行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎月、スタッフからご家族に対してメッセージを送らせて頂き、近況を報告している。ご本人からの一言を記入して頂いたり工夫もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の花を飾ったり、貼り絵をしたりし季節感を感じれる空間作りに努めている。入居者の方が過ごしやすいようテーブル、ソファの配置を変えたり工夫をしている。	
			(外部評価) 同じ敷地内にある平屋建ての3つのユニットはそれぞれ違った造りとなっている。各ユニットのリビングは明るく家庭的な雰囲気で利用者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが狭いため、各自の部屋を有効に活用し、落ち着く空間作りし個々のペースで生活できる様に努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた家具などを使用し、ご本人、ご家族の想いの空間を作って頂き、心地良い空間にして頂いている。	
			(外部評価) 使い慣れた物を持ち込み、好みの飾りつけをしており、利用者が落ち着いて生活できるよう居室づくりがされている。各居室には大容量のクローゼットが備えられ、居室内が整理がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 元々、軽度の認知症の人の受け入れを考え造られている。現在、入居している方も高齢化により身体機能の低下が見られる。段差をなくしたり、手摺りをつるなどハード面の改修を図りながら、安全に対して、注意をしながら生活支援を行っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 23 年 7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょに、の基本理念を大切に、認知症になった一人の人間・人として関わり・支援をしたいと考えている。その人が生活して行く場として、不安のない生活が送れるよう支援している。スタッフだけでなく、ご家族、地域住民の方々の協力を頂きながら地域の中で生活ができるよう、心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニットの利用者の暮らしぶりや職員の業務に対する姿勢から、理念である「のんびり・たのしく・いっしょに」が浸透し実践されていることが感じられる。管理者と職員は地域住民の協力を得ながら、利用者が地域の一員として生活できるよう、取り組んでいる。利用者の重度化や終末期等に対する要望が家族から出される等、事業所に求められる機能が変化している中、今後の事業所の在り方や方向性を常に検討しながら、より良いケアが提供できるよう実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 2 棟

記入者(管理者)  
氏名 矢野 幸男・近藤 久留美

評価完了日 平成23年 7月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 掲げた理念をホーム内に掲示。 職員は常に理念を念頭におき、入居者のケアに反映できるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 「のんびり・たのしく・いっしょに」を基本理念とし、職員は各ユニットが一つの家庭と捉え、利用者一人ひとりのペースに合わせて一緒に生活を楽しむことを心掛けている。理念に沿った支援が行えるよう職員間で連携や協力を十分に行い支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会の行事には、できる限り参加。事業所で行なう行事にも地域の方々にも呼びかけ、参加して頂くようにしている。定期的に発行している「むつみ新聞」も配布。情報を提供し理解を頂けるようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者が地域の一員として生活できるよう地域の方の協力を得ている。また、掃除当番等役割を担い、行事にも積極的に参加している。ボランティアを多数受け入れたり「むつみ新聞」を地域住民に届ける等、事業所の理解を得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に関催している運営推進会議で地域の方を含めた学習会を実施している。グループホームの理解、認知症の方の理解や支援方法について学んで頂いている。今年から地域の方の要望もあり、むつみ新聞において学習できるようコーナーを設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、事業所としての取組みを報告。 参加しているご家族、地域の方、行政の方からご意見 を頂きサービスに反映できるようにしている。	
			(外部評価) 会議では事業所の状況や活動報告を行い、利用者や家 族、自治会長、民生委員、行政の職員等からそれぞ れの立場での提案や情報提供が行われている。また会 議に合わせて避難訓練や勉強会、敬老会等も行い事 業所の取組みを知ってもらう機会となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 管理者を中心に副主任など、市担当者とは必要に応じ て連絡をとり、情報の共有を図れるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に毎回出席しており、情報提供や意見交 換をしている。日頃から連絡を密に行い情報の共有に 努めている。2か月毎に介護相談員の受け入れを行っ ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは身体拘束をしないことについて充分理解し ている。入居している人、一人一人の生活支援がで きるよう心掛けている。定期的な学習で充実を図り たい。	
			(外部評価) 職員は身体拘束をしないケアを理解している。帰宅願 望の強い利用者の場合、行動を制限するのではなく一 人ひとりの意向を汲み取り、居心地よく過ごしてもら えるような環境づくりをすることにより、落ち着いて 生活してもらえるよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解が不十分であり、権利擁護に関する研修会に参加する機会を増やしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、副主任より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明し、ご家族の理解を得るとともに、不安の軽減に努めている。説明中にご家族の戸惑いがあるので説明の順番など書類の整理をするなどの工夫をしたい。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者、ご家族のご意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も定期的に訪問しており、ご意見を頂いている。運営推進会議、事業所行事、カンファレンスなど外部の方と接する機会をもち、意見交換できる機会を増やしている。  (外部評価) 家族には面会の時や電話で連絡や報告を密に行い、利用者の生活の様子や健康状態等を知らせており、職員と話しやすい関係が築けるよう取り組んでいる。介護相談員を受け入れ、運営推進会議には全家族に開催案内を送り自由に参加してもらい、参加者と意見交換ができるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい体制が整い、スタッフから出た意見をリーダー会で検討。スタッフにフィードバックができるようになり事業所の運営に反映することができるようになった。	
			(外部評価) 管理者と職員は意見が言いやすい関係が築けている。各ユニットのリーダーが意見をまとめ定期的な会議で管理者と話し合い、さらに法人内の会議で話し合われ代表者にも届くようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 母体病院の事務長、看護部長が定期的に巡回して頂けるようになり、直接提言できるようになった。管理者は定期的に行なわれる会議で事業所の運営状況、意見を言いながら所定の伺い書にて改善をお願いしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体病院で定期的に研修を実施している。昨年度からは、担当看護師長が出向き、月1回の現任教育を行なっている。上部組織の開催する研修に対しても積極的に参加し資質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 上部組織である地域密着型サービス協会の主催する研修会に積極的に参加し他施設のスタッフとのネットワークの拡大に努めたい。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の性格や入居前の生活環境を考慮しながら、日々のケアの中で傾聴、見守りをしながら、関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、フェイスシートなどに記入、聴き取りする中から利用者やご家族の不安や要望を理解するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族やご本人と話し合い、希望・情報を得ながら日常生活全般において支援ができるよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人に、できる事をして頂きながら、日々の暮らしをいっしょにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡、報告を密にし、ご家族といっしょに、ご本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と相談しながらではあるが、特に面会制限もなく、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気であることができています。心地良く感じて頂けるよう、心掛けています。	
			(外部評価) 職員は家族と日頃から連絡を密に行い、面会に訪れやすい雰囲気づくりを心がけている。馴染みの医療機関や墓参り等、利用者一人ひとりの生活習慣に合った外出の支援や関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を把握し、トラブル時には早急な対応ができるように心掛けている。お互いが穏やかに過ごせるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談にのるなどの支援を行っている。 地域で出会った時などは挨拶を交わしたりしている。 個人情報の関係もあり配慮も必要と思っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、ご本人やご家族の意向を聴いている。また、日々の関わりの中でも把握に努め、職員間で情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) 職員は「のんびり・たのしく・いっしょに」という理念を常に意識し、日々利用者に関わる中から思いや意向を把握できるよう努めている。会話や表情等、日々の様子を職員間で共有し利用者本位になるよう話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時フェイスシートを基に、お聴きし、情報を得るようにしている。充分でないところは、日々の生活支援の中で把握するようにしている。また、ご家族の面会時に聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア、支援に活かせるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人から、希望を聴く事が難しい時がある。ケアプランの見直しの際に、ご家族の希望やご意見を聴き、取り入れるようにしている。ご本人主体の介護・支援計画が作成できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の意向や要望は、日々の関わりの中で把握し担当者が主となって課題について職員間で話し合っている。必要に応じて医療機関等専門職と情報交換を行いながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録に記入。週間活動表にも具体的に記入し職員間の共有ができるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。(病院受診の付き添いなど)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方、介護相談員の訪問、自治会主催の敬老会、盆踊り、住民運動会などへの参加、保育園の園児との交流などを積極的に行い地域での生活を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。 その他にも個々のかかりつけ病院の受診を継続し、身 体観察を行い、必要に応じて、ご家族と相談対応を行 なっている。	
			(外部評価) 母体病院をかかりつけ医としている利用者が多いが、 以前からのかかりつけ医を受診している利用者もお り、希望する医療機関での受診を支援している。受診 は家族に対応してもらっているが、情報の共有を十分 に行い適切に受診ができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 事業所内の看護師と連携し、状況に応じ担当医と相 談、対応をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や担当医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう情報の提供を行い情報の共有ができるよ うにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、また状態の変化に応じて、その都度、ご家族 に対して事業所としての考え方を説明している。 ご家族にとっては先々の不安が強く、今年度より特養 等の施設申込みを早めに実施している。	
			(外部評価) 看取りは行わない方針を入居時に利用者や家族への説 明を行っている。利用者の身体状況等に応じて医療機 関や特別養護老人ホーム等の施設に適切に移行でき るよう、利用者や家族と十分話し合いを行い、安心して 生活ができるよう支援している。	家族から重度化や終末期に向けた対応を事業所にして 欲しいという要望も出されており、方針も含め事業所 でできることを再度検討し、利用者が安定した生活が できるよう今後の取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 昨年度より、母体病院の看護師が毎月来棟し研修を行っている。 外部研修に対しても積極的に参加して行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。スプリンクラー、自動火災通報設備、自動火災報知設備については随時整備している。  (外部評価) 年2回避難訓練を実施し、合わせてAEDの使用方法や救急蘇生法等の学習を行っている。非常災害時の連絡網には地域住民の連絡先を入れており、協力体制もできている。また、事業所を避難場所として提供した事例もあり相互協力できる関係が構築されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者の人格の尊重は、職員一人一人が常に心掛けて支援しており、ご本人のペースに合わせ、自由に過ごして頂いている。  (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう対応をしている。一人ひとりの利用者に応じた声かけや支援方法を職員で検討し、日々実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援の、会話の中で、ご本人の気持ち、希望を聞き取れるように心掛けている。ご本人が選べる事のできる場面を作っている。自己決定のできない人は職員が、その思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースを大切にしている。時に業務優先になることがあるので注意が必要である。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族と話し合いながら、各自が使い慣れた化粧品を使用したり、その人の状況に応じた身だしなみ、おしゃれができるように取り組んでいる。ご本人同伴で買い物外出をしたり、理美容院は近所の馴染みの店を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、ユニットごとに献立を考え、買い物をいっしょに行ったり、食事の準備・片付けなど個々の状況を見ながら行っている。	
			(外部評価) 利用者の希望を十分取り入れながらユニット毎に献立が立てられている。食材は利用者と一緒に毎日買い物に出かけ購入している。食事中は会話を楽しみ和やかな時間となっている。外食や誕生日ケーキ、庭でウナギを焼く等趣向を凝らし楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養摂取、水分量の確保状況は個々によって違う。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養・水分補給ができるよう、こまめなチェックを行なっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援している。入居者の身体的疲労、負担の軽減も図れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適時、トイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行いトイレで排泄ができるよう支援している。必要に応じて介護計画に盛り込み、目標達成に向け計画的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事に野菜を多く取り入れ、自然排便を心掛けている。困難な方に対しては緩下剤を服用、調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴ができる状況にしている。一人一人の意向を大切にしている。入浴を嫌がる方に対しては声掛けを工夫し、入浴を楽しめるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の身体状況や要望等考慮し、回数や時間等臨機応変に対応している。仲の良い利用者同志と一緒に入浴したり、男性の入浴の日、女性の入浴の日を作る等、入浴が楽しみとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じた声掛けを行い、休息をとって頂いている。夜間の睡眠は、個々によって違うが覚醒時には、声掛け・見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。その人のペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や量については全員が理解できるように取り組んでいる。服用時には職員同士が確認しながら誤薬することのないよう特に注意している。医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対して対応できるよう心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味をもっている事を理解し、場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、手芸など本人の負担にならないよう見守りながら取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に対して支援できるようにし気分転換を図っている。地域行事等への参加、ユニット間の交流も積極的に行なっている。ご家族の協力も頂けるよう、その都度お願いをしている。  (外部評価) 近所には散歩に適したコースがあり、その日の天候や利用者の希望で出かけている。毎日の食材の買い物に利用者と職員と一緒にスーパーに出かけ、食材選びをしている。地域行事に参加したり、近所の理美容店に行ったり外食やドライブ、家族との外出等日常的に出かける機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、お金の管理については事務所で行なっている。入居者の個別的買い物については必要に応じて、ご家族の了解を頂きながら行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。ご家族からも定期的に電話を下さっており、会話することにより刺激になっている。毎月、事業所からご家族に対してメッセージを送らせて頂き、近況を報告している。ご本人からの一言を記入して頂いたりの工夫もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の花を飾ったり、はり絵をしたりし季節感を感じれる空間作りに努めている。入居の方が過ごしやすいうテーブル、ソファの配置を変えたりの工夫をしている。	
			(外部評価) 同じ敷地内にある平屋建ての3つのユニットはそれぞれ違った造りとなっている。各ユニットのリビングは明るく家庭的な雰囲気の利用者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自が落ち着く空間作り、個々のペースで生活できるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた家具などを使用し、ご本人、ご家族の想いの空間を作って頂き、心地良い空間にして頂いている。	
			(外部評価) 使い慣れた物を持ち込み、好みの飾りつけをしており、利用者が落ち着いて生活できるよう居室づくりがされている。各居室には大容量のクローゼットが備えられ、居室内が整理がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 元々、軽度の認知症の人の受け入れを考え造られている。現在、入居している方も高齢化により身体機能の低下が見られる。段差をなくしたり、手摺りを付けるなどハード面の改修を行ない安全に対して、注意をしながら生活支援を行っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 23 年 7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょに、の基本理念を大切に、認知症になった一人の人間・人として関わり・支援をしたいと考えている。その人が生活して行く場として、不安のない生活が送れるよう支援している。スタッフだけでなく、ご家族、地域住民の方々の協力を頂きながら地域の中で生活ができるよう、心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニットの利用者の暮らしぶりや職員の業務に対する姿勢から、理念である「のんびり・たのしく・いっしょに」が浸透し実践されていることが感じられる。管理者と職員は地域住民の協力を得ながら、利用者が地域の一員として生活できるよう、取り組んでいる。利用者の重度化や終末期等に対する要望が家族から出される等、事業所に求められる機能が変化している中、今後の事業所の在り方や方向性を常に検討しながら、より良いケアが提供できるよう実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 3 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男・上田 あや子

評価完了日

平成23年 7月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 掲げた理念をホーム内に掲示。 職員は常に理念を念頭におき、入居者のケアに反映できるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 「のんびり・たのしく・いっしょに」を基本理念とし、職員は各ユニットが一つの家庭と捉え、利用者一人ひとりのペースに合わせて一緒に生活を楽しむことを心掛けている。理念に沿った支援が行えるよう職員間で連携や協力を十分に行い支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会の行事には、できる限り参加。 事業所で行なう行事にも地域の方々にも呼びかけ、参加して頂くようにしている。 定期的に発行している「むつみ新聞」も配布。情報を提供し理解を頂けるようにしている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者が地域の一員として生活できるよう地域の方の協力を得ている。また、掃除当番等役割を担い、行事にも積極的に参加している。ボランティアを多数受け入れたり「むつみ新聞」を地域住民に届ける等、事業所の理解を得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に関催している運営推進会議で地域の方を含めた学習会を実施している。 グループホームの理解、認知症の方の理解や支援方法について学んで頂いている。 今年から地域の方の要望もあり、むつみ新聞において学習できるようコーナーを設けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議では、事業所としての取組みを報告。 参加して頂いたご家族、地域の方、行政の方からのご 意見を頂きサービスに反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 会議では事業所の状況や活動報告を行い、利用者や家 族、自治会長、民生委員、行政の職員等からそれぞれ の立場での提案や情報提供が行われている。また会議 に合わせて避難訓練や勉強会、敬老会等も行い事業所 の取組みを知ってもらう機会となっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 管理者、副主任、および担当者が市担当者と必要に応 じて連絡をとり、情報の共有を図っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に毎回出席しており、情報提供や意見交 換をしている。日頃から連絡を密に行い情報の共有に 努めている。2か月毎に介護相談員の受け入れを行っ ている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフは身体拘束をしないことについて充分理解し ている。 入居している人、一人一人の生活支援ができるよう心 掛けている。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束をしないケアを理解している。帰宅願 望の強い利用者の場合、行動を制限するのではなく一 人ひとりの意向を汲み取り、居心地よく過ごしてもら えるような環境づくりをすることにより、落ち着いて 生活してもらえるよう取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解が不十分であり、学習機会を増やしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、副主任より入居時に契約に関する説明を行なっている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明し、ご家族の理解を得るとともに、不安の軽減に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者、ご家族のご意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も定期的に訪問しており、ご意見を頂いている。運営推進会議、事業所行事、カンファレンスなど外部の方と接する機会をもち、意見交換できる機会を増やしている。  (外部評価) 家族には面会の時や電話で連絡や報告を密に行い、利用者の生活の様子や健康状態等を知らせており、職員と話しやすい関係が築けるよう取り組んでいる。介護相談員を受け入れ、運営推進会議には全家族に開催案内を送り自由に参加してもらい、参加者と意見交換ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい体制が整い、スタッフから出た意見をリーダー会で検討。スタッフにフィードバックができるようになり事業所の運営に反映することができるようになった。	
			(外部評価) 管理者と職員は意見が言いやすい関係が築けている。各ユニットのリーダーが意見をまとめ定期的な会議で管理者と話し合い、さらに法人内の会議で話し合われ代表者にも届くようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 母体病院の事務長、看護部長が定期的に巡回して頂けるようになり、直接提言できるようになった。管理者は定期的に行なわれる会議で事業所の運営状況、意見を言いながら所定の伺い書にて改善をお願いしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体病院で定期的に研修を実施している。昨年度からは、担当看護師長が出向き、月1回の現任教育を行なっている。上部組織の開催する研修に対しても積極的に参加して資質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 上部組織である地域密着型サービス協会の主催する研修会に積極的に参加し他施設のスタッフとのネットワークの拡大に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に、ご本人の情報収集を行なうとともに、日々のケアの中、傾聴・見守りを行ないながら関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、フェイスシートなどに記入、聴き取りする中からご本人やご家族の不安や要望を理解するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族やご本人と話し合い、希望・情報を得ながら日常生活全般において支援ができるよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご家族の気持ちになって、個々の状況に合わせた関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡、報告を密にし、ご家族と一緒にご本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と相談しながらではあるが、特に面会制限もなく、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気でお話ができる。心地良く感じて頂けるよう心掛けています。	
			(外部評価) 職員は家族と日頃から連絡を密に行い、面会に訪れやすい雰囲気づくりを心がけている。馴染みの医療機関や墓参り等、利用者一人ひとりの生活習慣に合った外出の支援や関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の馴染みの関係が築け、助け合う様子が見られる。個々の関係把握を充分に行い、トラブル時には早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談にのるなどの支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、ご本人やご家族の意向を聴いている。また、日々の関わりの中でも把握に努め、職員間で情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) 職員は「のんびり・たのしく・いっしょに」という理念を常に意識し、日々利用者に関わる中から思いや意向を把握できるよう努めている。会話や表情等、日々の様子を職員間で共有し利用者本位になるよう話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、フェイスシートを基に、お聴きし、情報を得るようにしている。充分でないところは日々の生活支援の中で把握するようにしている。また、ご家族の面会時に聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア、支援に活かせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人から、希望を聴く事が難しい時がある。 ケアプランの見直しの際に、ご家族の希望やご意見を聴き、取り入れるようにしている。 ご本人主体の介護・支援計画が作成できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の意向や要望は、日々の関わりの中で把握し担当者が主となって課題について職員間で話し合っている。必要に応じて医療機関等専門職と情報交換を行いながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録に記入。 週間活動表にも具体的に記入し職員間の共有ができるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対して柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方、介護相談員の訪問、自治会主催の敬老会、盆踊り、住民運動会などへの参加、保育園の園児との交流などを積極的に行い地域での生活を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。 その他にも個々のかかりつけ病院の受診を継続し、身 体観察を行い、必要に応じてご家族と相談対応を行 なっている。	
			(外部評価) 母体病院をかかりつけ医としている利用者が多いが、 以前からのかかりつけ医を受診している利用者もお り、希望する医療機関での受診を支援している。受診 は家族に対応してもらっているが、情報の共有を十分 に行い適切に受診ができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 事業所内の看護師と連携し、状況に応じ担当医と相 談、対応をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や担当医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう、情報の提供を行い、情報の共有ができ るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、また状態の変化に応じて、その都度、ご家族 に対して事業所としての考え方を説明している。 ご家族にとっては先々の不安が強く、今年度より特養 等の施設申込みを早めに実施している。	
			(外部評価) 看取りは行わない方針を入居時に利用者や家族への説 明を行っている。利用者の身体状況等に応じて医療機 関や特別養護老人ホーム等の施設に適切に移行でき るよう、利用者や家族と十分話し合いを行い、安心して 生活ができるよう支援している。	家族から重度化や終末期に向けた対応を事業所にして 欲しいという要望も出されており、方針も含め事業所 でできることを再度検討し、利用者が安定した生活が できるよう今後の取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 昨年度より、母体病院の看護師が毎月来棟し研修を行っている。外部研修に対しても積極的に参加するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。 スプリンクラー、自動火災通報設備、自動火災報知設備については随時整備している。  (外部評価) 年2回避難訓練を実施し、合わせてAEDの使用方法や救急蘇生法等の学習を行っている。非常災害時の連絡網には地域住民の連絡先を入れており、協力体制もできている。また、事業所を避難場所として提供した事例もあり相互協力できる関係が構築されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の人格の尊重は、職員一人一人が常に心掛けて支援しており入居者のペースに合わせ、自由に過ごして頂いている。  (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう対応をしている。一人ひとりの利用者に応じた声かけや支援方法を職員で検討し、日々実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援、会話の中で、ご本人の気持ち、希望を聴き取れるように心掛けている。ご本人が選べる事のできる場面を作っている。自己決定のできない人は職員が、その思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族と話し合いながら、その人の状況に応じた身だしなみ、おしゃれができるように取り組んでいる。 ご本人同伴で買い物外出、理美容院への散髪外出など	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食卓の雰囲気作りに配慮している。(音楽をかけたり会話をしながら季節感を感じて頂く) 個々の残存機能を活かしながら負担を感じないように配慮しながら手伝って頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望を十分取り入れながらユニット毎に献立が立てられている。食材は利用者と一緒に毎日買い物に出かけ購入している。食事中は会話を楽しみ和やかな時間となっている。外食や誕生日ケーキ、庭でウナギを焼く等趣向を凝らし楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養摂取、水分量の確保状況は個々によって違う。 個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養・水分補給ができるよう、こまめなチェックを行なっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援している。 入居者の身体的疲労、負担の軽減も図れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適時、トイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行いトイレで排泄ができるよう支援している。必要に応じて介護計画に盛り込み、目標達成に向け計画的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けている。 困難な方に対しては緩下剤を服用、調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴ができる状況にしている。一人一人の意向を大切にし、入浴を嫌がる方に対しては声掛を工夫し、入浴を楽しめるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の身体状況や要望等考慮し、回数や時間等臨機応変に対応している。仲の良い利用者同志と一緒に入浴したり、男性の入浴の日、女性の入浴の日を作る等、入浴が楽しみとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じた声掛けを行い、休息をとって頂いている。夜間の睡眠は、個々によって違うが覚醒時には、声掛け・見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。その人のペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や量については全員が理解できるように取り組んでいる。服用時には職員同士が確認しながら誤薬することのないよう特に注意している。 医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対して対応できるよう心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味をもっている事を理解し、場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、手芸などご本人の負担にならないよう見守りながら取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に対して支援できるようにし、気分転換を図っている。 地域行事等への参加、ユニット間の交流も積極的に行なっている。ご家族の協力も頂き行っている。	
			(外部評価) 近所には散歩に適したコースがあり、その日の天候や利用者の希望で出かけている。毎日の食材の買い物に利用者職員と一緒にスーパーに出かけ、食材選びをしている。地域行事に参加したり、近所の理美容店に行ったり外食やドライブ、家族との外出等日常的に出かける機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、お金の管理については事務所で行なっている。入居者の個別的買い物については必要に応じて、ご家族の了解を頂き行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。ご家族からも定期的に電話をかけて下さっており、会話することにより刺激になっている。毎月、事業所からご家族に対してメッセージを送らせて頂き、近況を報告している。ご本人からの一言を記入して頂いたり工夫もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の花を飾ったり、はり絵をしたりし季節感を感じれる空間作りに努めている。入居者の方が過ごしやすいようテーブル、ソファの配置を変えたり工夫をしている。	
			(外部評価) 同じ敷地内にある平屋建ての3つのユニットはそれぞれ違った造りとなっている。各ユニットのリビングは明るく家庭的な雰囲気で利用者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自が落ち着く空間作り、個々のペースで生活できるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた家具などを使用し、ご本人、ご家族の想いの空間を作って頂き、心地良い空間にして頂いている。	
			(外部評価) 使い慣れた物を持ち込み、好みの飾りつけをしており、利用者が落ち着いて生活できるよう居室づくりがされている。各居室には大容量のクローゼットが備えられ、居室内が整理がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 元々、軽度の認知症の人の受け入れを考え造られている。現在、入居している方も高齢化により身体機能の低下が見られる。ハード面の改修を図りながら安全に対する注意を行ないながら生活支援を行っている。	